

令和8年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
地域創生学部 地域創生学科 国際共生コース	向居 暁	2026 年 6 月 予 定	1811 地域文化 共同研究室 またはオンライン 会議	テーマ： 国際共生コースにおける総合型・学校推薦型選抜の設計—3つのポリシーに基づく小論文・面接評価の共通理解—
				実施目的： 国際共生コースの3つのポリシー（AP・CP・DP）を踏まえ、総合型選抜・学校推薦型選抜における小論文・面接の評価方針と運用上の留意点について共通理解を形成する。
				キーワード： 3つのポリシー（AP・CP・DP）、評価基準、推薦入試
				実施内容： 国際共生コースの3つのポリシーを踏まえ、総合型選抜・学校推薦型選抜で評価すべき資質・能力を確認する。書類、活動実績、学修計画、小論文、面接等を通して、問題意識、複眼的思考、主体性・協働性、大学での学びへの接続をどのように評価するかを共有・議論する。また、過年度の出題・評価を振り返り、今後の方向性を確認する。なお、本年度の具体的な出題内容や面接質問は扱わない。
地域創生学部 地域創生学科 国際共生コース	向居 暁	2026 年 12 月 予 定	1811 地域文化 共同研究室 またはオンライン 会議	テーマ： 「国際共生入門」の授業改善ワークショップ—コースの学びの入口としての共通テーマと授業設計—
				実施目的： 必修科目「国際共生入門」について、各教員の専門領域と共通テーマの関係を整理し、コースの学びの入口としての授業設計について共通理解を形成する。
				キーワード： 国際共生、多文化共生、文化継承
				実施内容： 1年次必修科目「国際共生入門」について、本年度の実施内容をもとに、各回の授業が国際共生コースの学びにどのように接続しているかを共有する。分野の異なる教員が担当する科目であるため、共通テーマを設定することの必要性や妥当性、学生に伝えるべきコース全体の学びの見取り図について意見交換を行う。あわせて、次年度に向けた授業構成、課題、座談会等の改善点を検討する。

令和8年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
地域創生学部 地域創生学科 経営コース	村上 恵子	通年 第2水曜日 コース会議 終了後	1616 演習室	テーマ： カリキュラム・マップとカリキュラム・ツリーを用いた授業および教育課程の体系性の検証
				実施目的： 経営コースにおける教育の質の向上を目的に、経営コースのカリキュラム・マップを全教員で共有・確認し、ディプロマ・ポリシー（DP）およびカリキュラム・ポリシー（CP）に即した授業形態や学修指導法について検討する。また、カリキュラム・ツリーを作成することで、教育課程の体系性を可視化し、課題の把握と改善につなげる。
				キーワード： カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリー、教育の質の向上
				実施内容： 経営コースのカリキュラム・マップを用いて、各教員が担当する授業内容や到達目標を共有し、ディプロマ・ポリシー（DP）およびカリキュラム・ポリシー（CP）との対応関係を確認する。その上で、教育の質向上に資する授業形態や学修指導法について意見交換を行う。さらに、科目間のつながりを整理したカリキュラム・ツリーを作成し、教育課程全体の体系性や課題を検討する。

令和8年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
地域創生学部 地域創生学科 健康科学 コース	辻 文 杉山 寿美 松本 茜 谷本 昌太 森脇 弘子 山岡 雅子 神原 知佐子 岡田 玄也 辻 愛	令和8年6月27 日（土） 10:00～（予定）	2455 室	テーマ： 卒業生との対話を通じた健康科学コース学生のキャリア形成支援
				実施目的： 本コースでは、栄養士免許、管理栄養士国家試験受験資格、食品衛生監視員・食品衛生管理者任用資格、栄養教諭一種免許状等の取得が可能であり、これらの資格や専門性を生かした進路として、行政、医療機関、学校、食品・研究関連機関、大学院進学等、多様なキャリアが想定される。 本FD活動では、健康科学コースの在校生および教員を対象として、各分野で活躍する卒業生等を講師とした管理栄養士シンポジウムを実施する。卒業生の実践経験やキャリア形成の過程を共有することにより、学生が本コースでの学びと将来の職業とのつながりを具体的に理解し、キャリアビジョンの明確化および主体的なキャリアデザインにつなげることを目的とする。 また、教員にとっても、卒業生の進路や現場で求められる資質・能力を共有し、教育内容、学生支援、学外実習指導等の改善に生かす機会とする。
				キーワード： キャリア形成、キャリアデザイン、進路支援
				実施内容： 健康科学コースの在校生および教員を対象として、「管理栄養士シンポジウム」を実施する。本コース卒業後に、行政栄養士、病院栄養士、栄養教諭、大学院進学後の研究・専門職、自治体・研究機関、国立研究開発法人等の多様な分野で活躍している卒業生等を講師として招き、現在の仕事内容、専門職としてのやりがい、学生時代に取り組んでおくべき学修・経験、資格取得や進学が現在の職務にどのようにつながっているか等について講話をいただく。 講話後には質疑応答および意見交換の時間を設け、学生が自身の進路選択やキャリア形成について主体的に考える機会とする。また、教員間においても、卒業生の活躍状況や社会的ニーズを共有し、今後の教育内容、キャリア支援、学外実習指導等の改善に資する情報を得る。 予定講師分野： 行政栄養士、病院栄養士、栄養教諭、市・農芸化学分野、県・総合技術研究所、国立研究開発法人等に勤務する卒業生等

令和8年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
地域創生学部 地域創生学科 健康科学 コース	辻 文 森脇 弘子 神原 知佐子 鈴木 麻希 松本 茜 渡壁 奈央	令和8年10月頃	未定	テーマ： 管理栄養士養成施設としての教育課程の検討
				実施目的： 本コースは管理栄養士養成施設として、管理栄養士に求められる専門的知識・技能、実践力、課題解決能力を育成する教育課程を編成している。一方で、近年、教員体制や担当授業科目に変更が生じており、管理栄養士国家試験ガイドラインやモデルコアカリキュラムとの整合性について、改めて組織的に確認する必要がある。 本FD活動では、健康科学コースの教育課程と管理栄養士国家試験ガイドラインおよびモデルコアカリキュラムとの対応関係を点検し、各授業科目における教育内容、到達目標、学修成果の位置づけを教員間で共有することを目的とする。あわせて、教員間の情報共有と交流を促進し、今後のカリキュラム改善、授業内容の連携、学外実習を含む教育支援体制の充実につなげる。
				キーワード： 教育課程、管理栄養士国家試験ガイドライン、カリキュラム点検
				実施内容： 健康科学コースの教員を対象として、管理栄養士養成施設としての教育課程に関する検討会を実施する。具体的には、現在の教育課程および各授業科目の内容について、管理栄養士国家試験ガイドラインやモデルコアカリキュラムとの対応関係を確認し、科目間の重複、不足、連携が必要な内容等について検討する。 また、数年前に実施した整合性確認以降、教員や授業科目に変更が生じていることを踏まえ、各教員が担当科目の教育内容や到達目標を共有し、管理栄養士養成課程全体としての学修の流れを再確認する。特に、専門基礎科目、専門科目、実験・実習科目、学外実習との接続を整理し、学生が段階的に専門性を高められる教育課程となっているかを検討する。 検討結果をもとに、今後の授業内容の見直し、科目間連携の強化、学外実習に向けた事前・事後指導の充実、国家試験対策およびキャリア支援との接続について、コース内で共通理解を形成する。

令和８年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
地域創生学部 情報学科	富田哲治 宇野建 折本寿子 佐々木宣介 重丸伸二 陳訓泉	4月上旬 9月下旬 その他	1321 演習室 教員研究室	テーマ： 教職課程の新規開設に伴うキャリア支援のための組織的支援（1年次）
				実施目的： 情報学科では令和８年度の入学生から中学校教諭一種免許状（数学）と高等学校教諭一種免許状（情報・数学）が取得できる。これらの資格を取得することは、教員となることに限らず、これからの情報人材に求められる資質を備えた人材の育成につながる。そこで、学科の学生がスムーズに教職課程を履修できるように、教務委員および教職委員が中心となって支援を行う。
				キーワード： 養成する人材像、キャリア選択
				実施内容： 卒業要件に関する履修について熟知している教務委員と教職課程について熟知している教職委員が連携して、教職課程の履修を希望する学生の支援を行う。そのために、教務委員と教職委員が連携して随時情報交換を行う。

令和8年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
生物資源科学部 地域資源開発学科	谷垣悠介 藤田景子 山本幸弘	月 1 回程度ある いは毎月実施さ れる学科会議	不確定もしくは オンライン	テーマ： 入学前学習と入学後の学習の連続性
				実施目的： 年内入試の合格者は、早期に学習目的が失われ、高校在校期間の学習意欲や学習頻度が下がりやすく、大学入学後の科目成績の低下を招きやすい。そのため、当学科では入学前学習を実施してきたが、対象科目は英語のみで範囲が限定的であり、また担当教員の負担も大きかった。そこで、次年度における入学前学習を業者に委託し、複数科目をカバーした入学前学習を採用することとした。本FD活動では、入学前学習の対象となる科目・単元を、当学科の入学学生に最適化できるよう、検討する。さらに次年度以降、実際に入学前学習のプログラムを受講した学生が、入学後、つまずきなく学習を進められているのか、その効果を検証することを見越している。
				キーワード： 入学前学習
				実施内容： つまずきやすい科目を選定し、また、学科により親和性の高い科目や単元を照らし合わせて、入学前学習受講プログラムを決める。当該業者とのオンラインミーティングを複数回実施して、最終的に確定させる。

令和8年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
生物資源科学部 生命環境学科 生命科学コース	山下泰尚	通年 毎月第2水曜 2限	対面による会議 (庄原キャンパス第二会議室)	テーマ： 卒業研究の指導が困難な学生に対する指導方法の検討
				実施目的： 最近、卒業研究の指導が難しい学生が増えている。そういった学生を無事卒業まで導くために、本FD活動では、コース教員間で知恵を出し合う機会を設けて対応策を練る。具体的には、学生のプライバシーに配慮しながら、教員間で各学生の状況について情報を共有し、適切な個別指導法を議論し、検討する。
				キーワード： 学生対応、研究活動、指導困難、教育力向上
				実施内容： 昨今、さまざまな理由により、研究室に來られなくなる学生や、研究室でトラブルを起こしてしまう学生が目立つようになっている。そういった学生の卒業研究指導は非常に困難になることが多い。2年次までの講義、実習では彼らの特性が目立ちにくく、研究室など小グループでの密な活動が始まって初めてそれらの特性が顕著に現れることが多い。学生間、学生-教員間でトラブルに発展するケースもあり、研究室全体に多大な影響が出る例もある。教員の多くは心理学の専門知識に乏しいため、一人だけで対応するのは困難である。そこで、このような学生を無事に卒業まで導くために、まず、各事例の情報を教員間で共有し、必要に応じて、教学課、学生相談室教員とも連携を取りながら、最適な指導法を個別に検討する。そういった情報を事例集として整理しておき、同種の事例が出た場合の参考とする。以上により、コース教員の教育力を向上する。 個人名は出さない、各自では記録等をとらないことを原則に、プライバシーに十分配慮して以下の項目を行う。 1) 学生が休みがちな場合 まずは、本人と連絡をとり事情を聞き、聞き取り内容によっては学生相談室にかかるように学生に指導する。本人と連絡が取れない場合は、教学課、保護者とも連携する。 2) 学生の研究室内外の行動が予測不能な場合 研究室学生間でトラブルが発生する場合がある。そういった場合に、研究指導や生活指導を行おうとしても、トラブル発生源の学生が取り合わないこともある。そのような行動となる原因が、学生がもつ発達障害やその他の特性による例も存在するようだ。教員、教学課、学生相談室と連携して、問題が複雑になる前に、対応方法を検討する。

令和8年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
生物資源科学部 生命環境学科 生命科学コース	岡田守弘	生命環境基礎セ ミナー（第4Q、 水曜3限） 生命科学セミナ ー（第4Q火曜 3限、4限）	生命環境基礎セ ミナー（2202 講義室） 生命科学セミナ ー（1202 講義 室）	テーマ： 学生に卒業研究を進める意義を考えさせる
				実施目的： 生命科学コースでは3、4 年次に卒業研究を行う。しかし、卒業研究の意義、位置づけを理解しないまま研究室に配属される学生も多い。本年度は、本学の大学院生による1、2 年生向けの講義を企画し、学生に早くから「研究すること」を考えさせ、研究の動機付けとする。講義では、卒業研究が、大学院進学を含めたキャリア形成にどう役立つ、あるいは役立ちそうか、大学院生目線で話をしてもらう。
				キーワード： 卒業研究、大学院生による研究紹介、ロールモデル、教育力向上
				実施内容： 学生に卒業研究、地域課題解決研究を早くから意識させ、卒業研究を有意義に進めさせるために、本学の大学院生にお願いして、大学在学時の研究と現在の研究との関連について話していただく。 ・1 年生向けの生命環境科学基礎セミナー、2 年生向けの生命科学セミナーでは、これまで、かなりの時間を割いて卒業研究について説明してきたが、学生の言動を見ると、卒業研究の意義が彼らに十分に伝わっていないように感じられる。そこで、研究についてより具体的に考えてもらうために、本年度は、本学の大学院に在籍する院生にお願いして、大学在学時の研究と現在の研究との関連についてお話しいただく。ロールモデルとなる院生の体験談は、大学院進学を含めた卒業後の進路を学生が考える格好の材料となると期待される。 ・登壇する大学院生を各研究室から推薦いただき、候補者リストを作成する。その上で、教員間で今年度の主たるテーマを議論し、そのテーマにふさわしい院生を選定し、セミナーの依頼を行う。場合によっては、外国人院生にも協力を仰げば、国際交流としてもよい試みになると考えられる。 ・各教員は、適宜、セミナーの内容の背景について自らの講義時間内で簡単な解説を加え、学生の理解を助けるように配慮する。これにより、各教員の講義のブラッシュアップにもつながり、各自の教育力の向上も図られる。

令和8年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
生物資源科学部 生命環境学科 環境科学コース	小林謙介 大竹才人 尾崎則篤 内藤佳奈子 橋本温	未定	未定	テーマ：環境科学コース実験科目群の DP/CP および環境科学基盤分野との適合性の再検討
				実施目的：環境科学コースで実施する基礎環境科学実験および応用環境科学実験について実施内容を整理し、DP/CP および分野への適合性を高めるとともに、効率的・効果的な運営を目指す。
				キーワード：環境科学実験、DP, CP
				実施内容： 環境科学コースで2, 3年生に配置している基礎環境科学実験および応用環境科学実験は環境科学分野で重要と考えられる複数の分野についての内容について、それぞれの専門の教員が実験として実施している。これらの内容について、 DP/CP および分野への適合性の観点から点検し、より高度な教育体系を目指す。また、併せて実験の運営にかかる教員のリソースを効率化させることで、より効率的かつ効果的な実験等の運営を目指す。 ① 現実実験内容の整理と DP/CP 等との適合性の点検 ② ①を受けて、新しい実験内容などの整理 ③ 新体系での実施の準備とカリキュラム/シラバス等の整理

令和8年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部	◎青井聡美 津田哲也 小野武也 古山千佳子 手島 洋 （事務） 近村千穂 笠井玲子	Ⅰ 令和8年4月 22日（水） Ⅱ 令和9年3月 予定 Ⅲ未定	Ⅰ オンライン Teams Ⅱ 対面 Ⅲオンライン	テーマ：Ⅰ入試倍率向上に向けた情報共有 Ⅱ生成AI時代の学びと評価を考える Ⅲ医療安全対策
				実施目的： 学生の実態理解と生成AI活用の方向性を教員間で共有し、学部としての教育改善・入試改善の方針を具体化する。
				キーワード： 学生意識調査 生成AI 医療安全
				実施内容： <u>テーマⅠ</u>：学生意識調査の分析結果を共有し、志願者の傾向や学生の価値観について教職員間で共通理解を深めることを目的とする。あわせて、共有された結果を踏まえ、今後の入試倍率向上に向けた取り組みについて検討する。 ・日時・方法：令和8年4月22日（水）16：20～17：30、オンライン開催 ・対象：保健福祉学部教職員 ・講師：藤巻康一郎 教授（作業療法学コース） <u>テーマⅡ</u>：生成AIを「禁止するかどうか」ではなく、「どのように活用すれば学びが深まるのか」を教職員全体で検討する。 ・日時・方法：令和9年3月上旬、対面開催（ディスカッション形式） ・対象：保健福祉学部教職員 ・ディスカッション内容（予定）： ①生成AIに関する現状の不安や疑問の共有 ②授業準備・教材作成など、教員による生成AI活用の実例紹介 ③生成AI活用を「禁止」ではなく、「適切に使わせる」ための工夫 ④生成AI活用による評価への影響 <u>テーマⅢ</u> ・対象：保健福祉学部の5コース、助産学専攻科の教員、職員およびSA等の学生 ・内容：各コースや附属診療センター等から依頼があった研修案内を、研修部門委員で審議し、本年度のFDテーマに沿った適切な内容と思われる研修について、学部FDと位置づけ、積極的に研修対象者に参加を促す。

令和8年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 保健福祉学科 看護学コース	教育課程検討会 ◎青井聡美 沖西紀代子 俵 志江 渡辺陽子 加利川真理 中垣和子 麻生浩司 土路生明美 神垣早紀	毎月1回	対面または Teams 会議	テーマ： ①看護学コースのカリキュラム評価 ②学修支援・卒業生アドバイザーの運用 ③国家試験対策と教員採用試験対策
				実施目的： 看護学コースにおける教育の質保証と学修成果の向上を図るため、カリキュラム評価・学修支援体制・国家試験および教員採用試験対策を統合的に検討し、学生の成長を継続的に支える教育環境を整備することを目的とする。
				キーワード： カリキュラム評価、学修支援、国家試験・教員採用試験対策
				実施内容： 1. カリキュラム評価の検討 ・DP 評価ループブック集計と分析 2. 学修支援アドバイザー(在学生・卒業生)の運用 3. 国家試験対策（国家試験模試除く） ①国家試験対策通信作成(年2回)、解剖学セミナーの実施 ②国家試験模試後のチューター面談の依頼と学修状況が気になる学生への対応の検討 ③令和8年度看護師・保健師国家試験自己採点の集計・評価および結果の共有について ④保健師国家試験対策 保健師模試セミナーの開催 ⑤教員採用試験対策 1. 教員採用試験の前倒し実施や試験内容の変更が進む中、最新の動向を的確に把握し、学生が求められる資質・能力を身につけた上で採用試験を突破できるよう、体系的な指導体制を整備する

令和8年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 保健福祉学科 看護学コース	看護学コース FD担当 青井聡美	毎月1回	Teams オンライン会議	テーマ： スコーピングレビューを通じた教員の研究実践力向上
				実施目的： 学生・大学院生への研究指導力を高め、組織としての研究基盤を強化する
				キーワード： 研究実践力 スコーピングレビュー
				実施内容： 書籍と実際のスコーピングレビュー論文を併読し、批判的に読み解く力を養う 日時：毎月1回（8月を除く） 12：15～12：45 内容： 1. スコーピングレビューの読み方を学ぶ 2. スコーピングレビューの書き方を理解する 3. レビューテーマの協議・レビュークエスションの決定 4. 的確基準の確立・データベースの検索 5. 灰色文献の検索・プロトコル作成と登録・1次スクリーニング・2次スクリーニング 6. データ抽出・結果の提示方法を学ぶ 7. 考察の書き方・結論の書き方 どのように書き分けているのか 8. ミニ・スコーピングレビュー発表 ディスカッション形式で進める。

令和 8 年度 県立広島大学 学部・学科・コース等による F D 活動（教育改善）計画書

F D 活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 保健福祉学科 看護学コース	実習検討会 ◎奥田 玲子 岡田 ゆみ 菅井 敏行 松森 直美 山中 道代 井上 誠 上野 陽子 増本 由紀子 木場 しのぶ	テーマⅠ 年 1 回 テーマⅡ 毎月 1 回	テーマⅠ Teams 会議 テーマⅡ Teams 会議	テーマ： Ⅰ：実習指導担当者との前年度実習の成果と課題、今年度臨地実習に関する情報共有 Ⅱ：臨地実習教育の充実
				実施目的： 臨地実習における学生の現状と課題を関係者間で共有し、円滑な臨地実習の運営と看護教育の質向上を図る。
				キーワード： 臨地実習、情報共有、看護教育質向上
				実施内容： テーマⅠ：実習指導担当者との前年度実習の成果と課題、今年度臨地実習に関する情報共有 実習指導担当者協議会を開催し、本学教員と実習指導担当者間で令和 7 年度実習の成果・課題を共有する。また、「臨地実習で実施可能な看護技術の範囲 ―新卒看護師に求める看護技術の観点から―」をテーマとし、グループ討議を行う。 日時：4 月 17 日（金） 13：30～15：00 テーマⅡ：臨地実習教育の充実 毎月の会議で各臨地実習の報告を行い、実習指導上の問題点や指導内容について情報共有および意見交換を行う。また、年間計画に基づいて以下の内容について検討し、臨地実習の充実を図る。 1. 実習指導担当者協議会を企画・運営 2. 令和 9 年度臨地実習要綱の作成と管理 3. 令和 9 年度実習計画案の作成 4. 「看護技術の卒業時到達レベルと経験録」の集計と活用方法の検討 5. 実習状況の共有および学生指導への活用 6. 感染予防対策の強化および実習時期の見直しの検討 7. 学生及び教員が加入している保険内容についての周知 8. 統合実習Ⅰ・Ⅱ、地域包括ケア実習担当者への伝達

令和8年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 保健福祉学科 理学療法学 コース	小野 武也	通年 随時、水曜他 開催	Teams オンライン	テーマ：適切な学生支援のための情報収集と情報共有ならびに対応方法の検討
				実施目的：「多様な学生への支援を柔軟かつ適切に対応するため」、「国家試験やコアカリキュラムに即した科目内容を検討し、受験生に選ばれる魅力的な専門科目を設定するため」、「最新の研究知見をふまえた専門教育の充実を図るため」
				キーワード： 学生支援、国家試験、教育実践
				実施内容： （１）「適切な支援のための学生状況の把握と共有」について コース会議での報告を通して支援や配慮が必要な学生を把握し対応を協議する。 （２）「臨床実習の適切な運営に関する状況把握と共有」 臨床実習では臨床実習指導者と教員が連携して学生の実習状況を共有し、円滑な実習が実施できるように支援する。 （３）「国家試験に関する学生の状況把握と学習支援」 国家試験模試結果の共有や国家試験対策講義、個別支援等に活用し、コアカリキュラムに沿った講義内容へ洗練する。 （４）「新カリキュラムに向けた魅力ある専門科目の設定」について 担当科目の教授法の実践例紹介を通して、座学・演習科目間の関係を図る。さらに、指定規則改定に伴う実習体制の検討や教育プログラムの構築、新施設基準に即した教育物品の購入・充実化も継続する。 （５）「各教員の教育・研究領域の紹介」について 各教員の教育・研究領域における成果の共有や最新のトピックスを紹介することで、教育研究能力の向上を図る。コース会議に合わせて月１回程度、各教員の研究紹介などを実施する。 備考）個人情報等を含む内容は、非公開とする。

令和8年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 保健福祉学科 作業療法学 コース	古山千佳子	テーマⅠ：コー ス会議（毎月 第1, 3水曜日） テーマⅡ：年6 回（4/8, 6/17, 7/15, 10/21, 1/20, 2/17） 12：30-13：00	4102 会議室	テーマ： テーマⅠ：学生支援の検討 テーマⅡ：教育理念と授業内容の共有
				実施目的：テーマⅠ：学生の情報を共有し，指導・援助に関するコース内のコンセンサスを図る。 テーマⅡ：授業および研究内容を教員間で共有し，教育および研究の質の向上を目指す。
				キーワード： 学生指導，情報共有，教育の質
				実施内容： テーマⅠ：コース会議にて学生情報の共有と対応の協議 テーマⅡ： ① 4月8日 ブランド・戦略について（藤巻康一郎） ② 5月20日 目標管理型教員業績評価の導入とこれからの教員業績形成（藤巻康一郎） ③ 6月17日 世界作業療法士連盟（WFOT）の教育最低基準の改訂について（古山千佳子） ④ 7月15日 研究および授業紹介（三木恵美） ⑤ 10月21日 国家試験対策，国家試験の学習に関する学生情報の共有（4年生チューター） ⑥ 1月20日 授業ピアレビュー（参観・公開）の感想および情報共有（全教員） ⑦ 2月17日 R8年度 学生指導の総括（1-4年チューター）

令和８年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 保健福祉学科 コミュニケーション 障害学コース	津田 哲也	通年（令和８年 ４月～令和９年３ 月；年５回程 度）	Teams 上にてオ ンラインで実施	テーマ：年間を通じたコースでの教育改善活動を目的とし、併せて研究活動、臨床および地域貢献活動の活性化を図る
				実施目的：①教育の質の向上、②教育の成果に即したカリキュラム改善、③教員の研究・臨床能力の向上および研究・臨床活動の活性化
				キーワード：教育の改善、研究・臨床活動情報共有、伝達講習
				実施内容：保健福祉学部保健福祉学科コミュニケーション障害学コースの教員を対象として、本コースが養成を目指す人材を育成するために各教員が行っている教育・研究および臨床・社会貢献に関する活動内容の共有や研究発表を行う。これにより、教員相互の知見の深化とスキルアップを図るとともに、コース全体としての教育研究の質の向上および体系的なブラッシュアップを目的とする。 テーマⅠ 教員が取り組んでいる教育改善活動の紹介と共有 コース教員による持ち回り テーマⅡ 教員が取り組んでいる臨床・研究活動の紹介と議論 ・コース教員による持ち回り ・学会・研究会での発表予演会（日本言語聴覚士学会など学会前に開催）

令和8年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

F D 活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 保健福祉学科 人間福祉学 コース	手島 洋	令和8年6月 予定	teams による オンライン開催	テーマ： 適正な研究倫理審査申請による研究活動の推進 ・研究倫理審査の目的と三原キャンパスでの現状と課題の理解 ・研究倫理審査申請の自己点検のポイントの理解
				実施目的： 教員の研究活動の前提となる研究倫理審査の目的を再確認したうえで、三原キャンパスでの現状と課題を理解し、今後の審査の申請時に留意すべき点について理解することを目的とする。
				キーワード： 研究倫理
				実施内容： 対象：人間福祉学コース教員（参加を希望する三原キャンパスの他コース教員も参加可とする） 日時：令和8年6月中旬予定 方法：teams によるオンライン実施 内容： 1. 三原キャンパス研究倫理委員（人間福祉学コース）から研究倫理審査の現状と課題について報告 2. 参加者が小グループに分かれて報告を受けて情報共有と質問事項を意見交換 3. 全体会にて質疑応答

令和8年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
助産学専攻科	伊集院 睦雄 奥山 葉子 金川 景子 上野 陽子	令和8年4月～ 令和9年3月 (助産学実習期 間を除き月に1 回程度開催)	三原キャンパス 4315 研究室	テーマ： 教育や実践・臨床現場の効果的な質保証に向けた取り組み
				実施目的： 学生の学修意欲を引き出すための主体的な授業や参加型学修方法、それらを評価するための方法について検討し実践に繋げる。また教員の学修指導力の向上や教員自身の実践力を身につけることを目的とする。
				キーワード： シミュレーション教育、健康教育、客観的臨床能力試験：OSCE
				実施内容： 少子化やハイリスク妊産婦の増加など、周産期に関する社会情勢の急激な変化に伴い、助産師の役割も複雑化している。助産学専攻科では、自立・自律した助産師として複雑化した諸問題への対応能力を養うため、幅広い知識と柔軟な思考力に基づき、学生自らが考え、仲間とともに主体的に学ぶ授業スタイルを大切にしている。教員は専門職としての自律を担保し、臨床現場に即した実践能力を養うための教育方法を検討するとともに、具体的な評価方法を検討・実践する必要がある。 これらをふまえ、今年度、助産学専攻科では、以下の活動を行う。 (1) 教育の質の向上および学生の学修状況を把握するため、各教員が行っている教育活動の共有・改善に向けての検討を行う。 ① 入学時の学生の習熟度（プレテスト）と評価について ② タスク・トレーニングの検討と評価について ③ 妊娠・分娩・産褥・新生児 各期のシチュエーション・ベースド・トレーニングと評価の検討 ④ シミュレーション教育後の実習での学び方 ⑤ 女性のライフステージに沿った健康教育（公開講座）と評価の検討 (2) 教員が取り組んでいる研究、地域における活動、受講した研修内容について共有する。 以上を1回/1～2ヶ月程度実施する。